

HSBC ブラジル株式オープン (野村SMA向け)

追加型投信／海外／株式

償還交付運用報告書

第6期（償還日 2015年10月30日）

作成対象期間

(2015年7月23日～2015年10月30日)

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「HSBC ブラジル株式オープン(野村SMA向け)」は、この度、信託約款の規定に基づき、繰上償還の運びとなりました。

当ファンドは、「HSBC ブラジル マザーファンド」への投資を通じて、主にブラジル連邦共和国（以下、「ブラジル」といいます。）の株式等に投資することにより信託財産の中長期的な成長を目指す投資方針に沿い、当期の運用を行いました。

ここに運用状況と償還内容をご報告いたしますとともに、これまでのご愛顧に対し厚くお礼申し上げます。

HSBC投信株式会社

東京都中央区日本橋3-11-1 HSBCビルディング
《お問い合わせ先（クライアントサービス本部）》
電話番号：03-3548-5690
（営業日の午前9時～午後5時）
ホームページ：www.assetmanagement.hsbc.com/jp

HSBC 
Global Asset Management

償還日（2015年10月30日）

償還価額	7,013円84銭
純資産総額	70万円
第6期	
騰落率	-29.4%
分配金	－円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

▶当ファンドは、信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、弊社のHP（ホームページ）で下記の手順でご覧いただけます。

<閲覧方法>

右記URLにアクセス⇒HP左上の「基準価額」を選択⇒償還ファンド欄の当ファンドの「運用報告書」（アイコン）を選択⇒「交付運用報告書・運用報告書（全体版）」の一覧の最新の運用報告書（全体版）を選択すると、当該運用報告書（全体版）を閲覧・ダウンロードすることができます。※将来、HPの見直し等により、閲覧方法が変更になる場合があります。

▶運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

《償還交付運用報告書 目次》

	頁
◆運用経過◆	1
▶ 基準価額等の推移について	
▶ 基準価額の主な変動要因	
▶ 1万口当たりの費用明細	
▶ 最近5年間の基準価額等の推移について	
▶ 投資環境について	
▶ ポートフォリオについて	
▶ ベンチマークとの差異について	
◆お知らせ◆	6
◆当ファンドの概要◆	7
◆（参考情報）代表的な資産クラスとの騰落率の比較◆	8
◆当ファンドのデータ◆	9
▶ 当ファンドの組入資産の内容	
▶ 組入ファンド等	
▶ 種別構成等（【資産別配分】【国別配分】【通貨別配分】）	
▶ 純資産等	
▶ 組入上位ファンドの概要 <参考情報> ◆HSBC ブラジル マザーファンド	
▶ 基準価額の推移	
▶ 1万口当たりの費用明細	
▶ 種別構成等（【資産別配分】【国別配分】【通貨別配分】）	
▶ 組入上位銘柄	
◆指数に関して◆	12
▶ 当ファンドのベンチマークについて	
▶ 「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について	

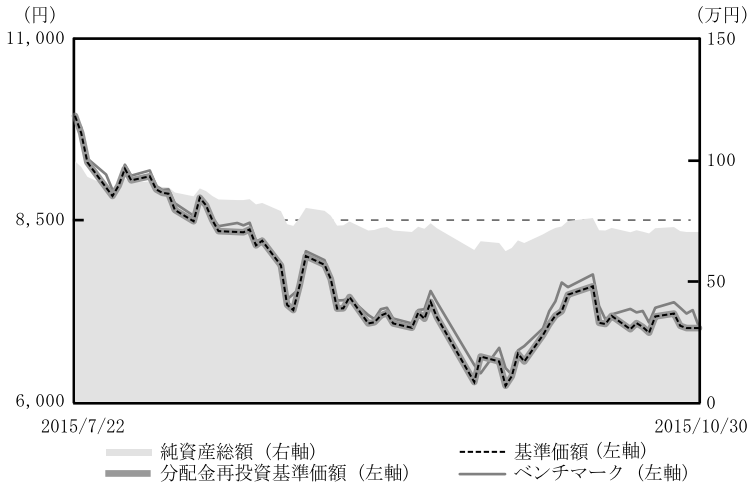
◆運用経過◆

基準価額等の推移について

（第6期：2015年7月23日～2015年10月30日）

＜基準価額の動き＞

基準価額は、期首（2015年7月22日）の9,939円から償還時（2015年10月30日）は7,013円84銭となり、分配金再投資ベースの基準価額は期首に比べ、29.4%の下落となりました。



第6期首（2015/ 7/22）：9,939円
 償還日（2015/10/30）：7,013円84銭
 （既払分配金 - 円）
 騰落率：-29.4%
 （分配金再投資ベース）

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。左のグラフの推移はそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

- ・当ファンドのベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標）は、『MSCI ブラジル10/40指数（円ベース）』です。
- ・ベンチマークの詳細は、最終ページの「指数に関して」をご参照ください。
- ・ベンチマークおよび分配金再投資基準価額は、期首の値を基準価額（9,939円）と同一になるよう指数化しております。
- ・基準価額と分配金再投資基準価額は同一に推移しております。

基準価額の主な変動要因

＜下落要因＞

- ・ブラジル株式市場の下落。
- ・ブラジルレアルの対円での下落。

1万口当たりの費用明細

項目	第6期		項目の概要
	2015/7/23～2015/10/30		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	29円	0.369%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は7,761円です。 ファンドの運用等の対価（運用委託先への報酬が含まれます。） 分配金・換金代金の支払い、運用報告書等の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
（投 信 会 社）	(25)	(0.325)	
（販 売 会 社）	(1)	(0.015)	
（受 託 会 社）	(2)	(0.030)	
(b) 売買委託手数料	1	0.008	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	(1)	(0.008)	
(c) その他費用	6	0.079	(c) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 振替制度に係る費用、印刷業者に支払う法定書類に係る費用等
（保 管 費 用）	(2)	(0.028)	
（監 査 費 用）	(2)	(0.022)	
（そ の 他）	(2)	(0.029)	
合計	36	0.456	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加設定・一部解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

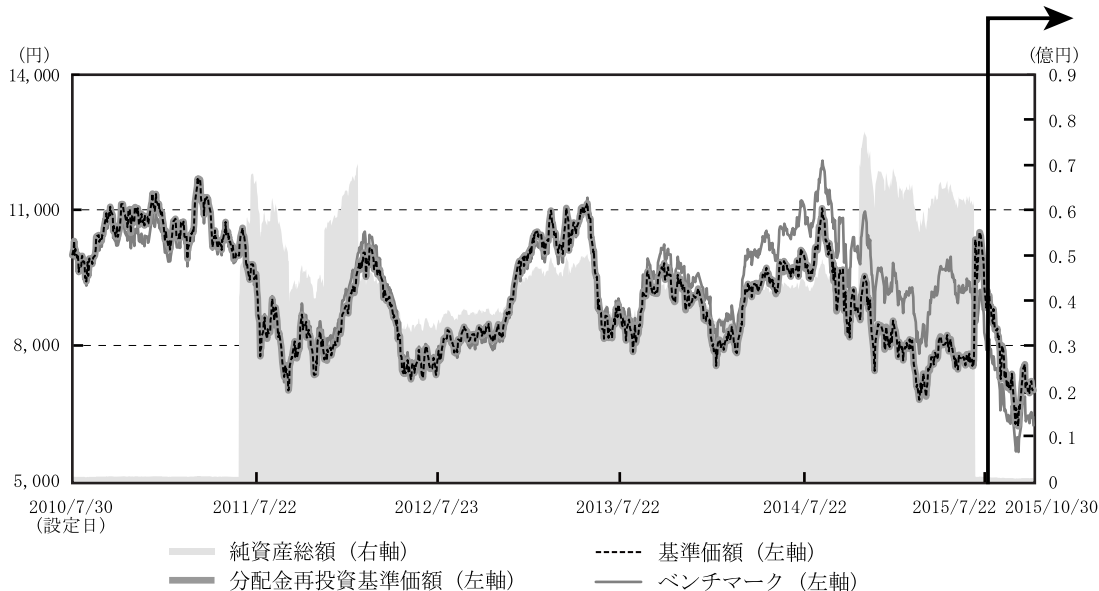
(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 「投信会社」は、以下、「委託者」、「委託会社」という場合があります。

(注5) 「(c)その他費用」の「(保管費用)」には非居住者のブラジル国内株式投資に係る金融取引税（1万口当たり0円）が含まれます。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2010年7月30日～2015年10月30日)

当期
(2015/7/23～2015/10/30)

- ・分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を再投資したものと計算しております。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なり、また課税条件によっても異なるため、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではない点にご留意ください。
- ・ベンチマークおよび分配金再投資基準価額は、2010年7月30日の値を基準価額（10,000円）と同一になるよう指数化しております。
- ・当ファンドは設定来分配を行っていないため、基準価額と分配金再投資基準価額は同一に推移しております。
- ・基準価額等の推移は、5年超になっております。

	2010/7/30 (設定日)	2011/7/22	2012/7/23	2013/7/22	2014/7/22	2015/7/22	2015/10/30
基準価額（円）	10,000	9,799	7,562	8,626	10,019	9,939	7,013.84
期間分配金合計（税込み）（円）	—	0	0	0	0	0	—
分配金再投資基準価額の騰落率（％）	—	△2.0	△22.8	14.1	16.1	△0.8	△29.4
ベンチマークの騰落率	—	△2.1	△21.8	15.2	25.7	△20.4	△29.3
ファンドとベンチマークの差異（％）	—	0.1	△1.0	△1.1	△9.6	19.6	△0.1
純資産総額（百万円）	1	67	34	38	44	0.9	0.7

- ・分配金再投資基準価額の騰落率は、分配金（税込み）を再投資したものと計算しております。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なり、また課税条件によっても異なるため、上記の騰落率は一律に受益者の損益状況を示すものではない点にご留意ください。
- ・期間分配金合計および騰落率については、年間の値を表示しております。ただし、2011/7/22の騰落率については、設定日以降当該日までの値を表示しております。なお、直近については前期末以降償還日までの値を表示しております。

投資環境について

【株式市況・為替相場】

<第1期（2010年7月30日～2011年7月22日）>

ブラジル株式市場は2010年7月30日（当ファンド設定日）から10月までは先進国の金融緩和や国内景気の堅調な拡大などを好材料に上昇しました。しかしながら、その後は国内インフレ率の上昇とこれに伴う金利先高感の高まり、さらにギリシャ、アイルランド、ポルトガルなどユーロ圏周辺国の財政懸念・債務問題による投資家のリスク回避志向の高まりなどを背景に、下落基調となりました。

ブラジルレアルは、対円では小幅な値動きにとどまりました。

<第2期（2011年7月23日～2012年7月23日）>

ブラジル株式市場は第2期を通じて一進一退の動きを続けながらも、やや売り優勢の展開となりました。ギリシャを中心とする欧州債務問題に対する懸念と投資家のリスク回避志向の高まりが引き続きマイナス要因となりました。中国の景気減速懸念も悪材料視されました。他方、インフレ率の低下を背景に、中央銀行が2011年8月に利下げに転じた後、連続して利下げを実施したことがプラス要因となりました。また、2011年11月に大手格付会社スタンダード・アンド・プアーズ（S & P）がブラジルの自国通貨建長期債務格付けを「BBB+」から「A-」に、外貨建長期格付けを「BBB-」から「BBB」に引き上げたことも好材料となりました。

レアルは、投資家のリスク回避志向が強まる中で、対円で下落しました。

<第3期（2012年7月24日～2013年7月22日）>

ブラジル株式市場は、第3期初から2012年末にかけては、日米欧の中央銀行による追加緩和期待、加えて国内での追加利下げなどを受けて、上昇しました。2013年初以降は、国内インフレ率が上昇し、4月には中央銀行が利上げに転じたこと、また海外では5月の米連邦準備制度理事会（FRB）バーナンキ議長発言を契機とした米国の量的緩和縮小懸念から、新興国株式市場全般が下落する中で、ブラジル市場でも値を下げました。

レアルは、対円ではアベノミクスによる円安の進行から上昇しました。

<第4期（2013年7月23日～2014年7月22日）>

ブラジル株式市場は第4期初から2013年10月までは、国内の底堅い景気指標や最大の輸出相手国である中国の景気回復期待などから上昇、その後、2014年2月にかけては海外要因として米FRBの量的緩和縮小懸念、国内要因としては中央銀行の利上げなどを受けて下落しました。2014年3月以降は、同年10月の大統領選挙での政権交代への期待から値を戻す展開となりました。

レアルは対円で強含む展開となりました。

<第5期（2014年7月23日～2015年7月22日）>

ブラジル株式市場は、第5期初から2014年9月初めまでは上昇基調を辿りました。背景には、一時期、世論調査で現職のジルマ大統領の支持率が低下し、政権交代期待が高まったことが挙げられます。しかし、その後、支持率は回復し、10月下旬の決選投票でジルマ大統領が再選されたことにより、経済構造改革が遅れるとの懸念から株式市場は下落に転じました。景気の低迷とインフレ率の加速など实体经济の悪化もマイナス要因となりました。2015年に入ると、第2期ジルマ政権の経済再建策が評価され、株式市場は戻り歩調となりましたが、期を通して見ると、代表的株価指数であるボベスパ指数は当期首比で値を下げました。

レアルは対円で下落しました。背景には、ブラジルの経済ファンダメンタルズの悪化やペトロプラスを舞台とした汚職疑惑の捜査の進展とこれに伴う政治の混乱などが挙げられます。

<第6期（2015年7月23日～同年10月30日）>

ブラジル株式市場は、期初から9月初旬にかけて下落、その後戻したものの、前期末比では値を下げて取引を終えました。米国の利上げ時期や利上げペースを巡る不透明感、中国の景気減速懸念、国内では軟調な景気指標や政局の混乱による経済政策の実施の遅れなどがマイナス要因となりました。

レアルは、株式市場と同様の理由から、対円で下落しました。

ポートフォリオについて**<HSBC ブラジル株式オープン（野村SMA向け）>（当ファンド）**

第1期から第5期まで、「HSBC ブラジル マザーファンド」への投資を通じて、主にブラジルの株式等に投資しました。第6期は償還に向けて同マザーファンドの売却を行いました。

<HSBC ブラジル マザーファンド>**<第1期（2010年7月30日～2011年7月22日）>**

ポートフォリオでは、高成長の見込めるショッピングモール関連サービスのBRモルス、建設資材のデューラテックス、持株会社のイタウザ・インベスティメントス・イタウの組入比率を上位に保ちました。また、2010年末以降は、政府が強力に推進するインフラ投資の恩恵を受ける高速道路管理・運営会社CCR（旧コンセッソンス・ロドビアリアス）の組入比率を徐々に引き上げました。その他、資源大手ヴァーレ、銀行持株会社イタウ・ユニバンコ・ホールディング、ブラジル銀行など流動性が高い大型株の組入比率を引き続き高位に維持しました。

<第2期（2011年7月23日～2012年7月23日）>

ポートフォリオでは、第2期を通じて、高成長が見込める高速道路運営のCCR、ショッピングモール関連サービスのBRモルズ、食肉加工のBRFの組入比率を上位に保ちました。その他、銀行持株会社のイタウ・ユニバンコ・ホールディング、ブラデスコ銀行、資源のヴァーレなど流動性の高い大型株の組入比率を引き続き高位に維持しました。

<第3期（2012年7月24日～2013年7月22日）>

ポートフォリオでは、引き続き高成長の見込める高速道路運営のCCR、食肉加工のBRF、持株会社のイタウザ・インベスティメントス・イタウの組入れ比率を上位に保ちました。その他、銀行持株会社のイタウ・ユニバンコ・ホールディング、ブラデスコ銀行、資源のヴァーレなど流動性の高い大型株の組入比率を引き続き高位に維持しました。

<第4期（2013年7月23日～2014年7月22日）>

ポートフォリオでは、引き続き高成長の見込める高速道路運営のCCR、食肉加工のBRFの組入れ比率を上位に保ちました。その他、銀行持株会社のイタウ・ユニバンコ・ホールディング、石油大手のペトロブラス、資源のヴァーレなど流動性が高い大型株の組入比率を引き続き高位に維持しました。

<第5期（2014年7月23日～2015年7月22日）>

ポートフォリオでは、高速道路運営のCCR、持株会社のイタウザ・インベスティメントス・イタウ、ソフトウエア・サービスのTOTVSなどの組入比率を上位に保つとともに、銀行持株会社イタウ・ユニバンコ・ホールディング、資源大手ヴァーレ、ビール会社アンベブなど流動性が高い大型株の組入比率を高位に維持しました。

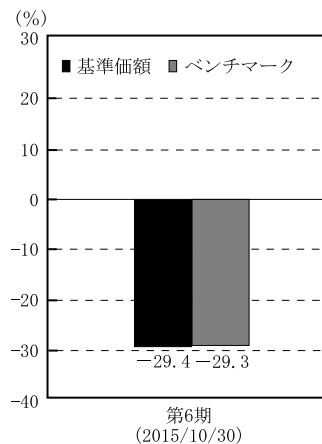
<第6期（2015年7月23日～同年10月30日）>

ポートフォリオでは、引き続き高速道路運営のCCR、持株会社のイタウザ・インベストイメントス・イタウ、また砂糖・エタノールメーカーのサンマルチニョなどの組入比率を上位に保ちました。また、加えて銀行持株会社イタウ・ユニバンク・ホールディング、ビール会社アンベブ、石油大手ペトロブラスなど流動性が高い大型株の組入比率を引き続き高位に維持しました。

ベンチマークとの差異について

当期（第6期）の当ファンドの基準価額は、分配金再投資ベースで29.4%の下落となり、ベンチマークの騰落率（-29.3%）を0.1%下回りました。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



◆お知らせ◆

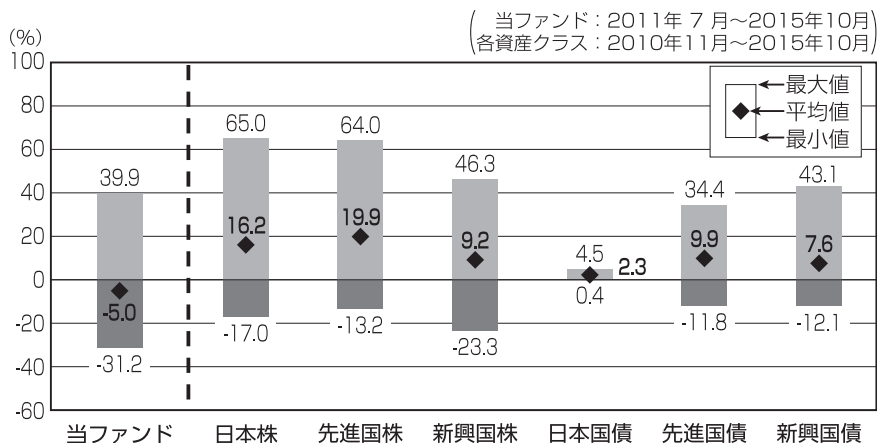
<約款変更のお知らせ> ありません。

<その他のお知らせ> ありません。

◆当ファンドの概要◆

商 品 分 類	追加型投信／海外／株式	
信 託 期 間	2010年7月30日～2015年10月30日（当初：無期限）	
運 用 方 針	HSBC ブラジル株式オープン（野村SMA向け）（「ベビーファンド」）は、HSBC ブラジル マザーファンド（「マザーファンド」）受益証券への投資を通じて、主にブラジルの株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。	
主 要 投 資 対 象	ベ ビ ー フ ァ ン ド	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マ ザ ー フ ァ ン ド	主にブラジルの証券取引所に上場している株式等に投資します。
ベビーファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・株式の実質組入比率は、原則として高位に維持します。 ・実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ・MSCIブラジル10/40指数（円ベース）をベンチマークとして、中長期的に当該インデックスを上回る投資成果を目指します。 	
分 配 方 針	<p>年1回の決算時（毎年7月22日、休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <p>①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②分配金額は、委託者が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。</p> <p>③留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

◆（参考情報）代表的な資産クラスとの騰落率の比較◆



グラフは、当ファンドについては上記記載の期間、代表的な資産クラスについては上記記載の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示したものです。

- ・上記は、当ファンドの騰落率と代表的な資産クラスの騰落率を比較したものであり、各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。
- ・当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。
- ・騰落率は直近月末から60ヶ月（当ファンドは上記記載の期間）遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値と異なります。
- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

【各資産クラスの指数】

日本株：東証株価指数(TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド(円換算ベース)

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

◆当ファンドのデータ◆

(2015年10月30日現在)

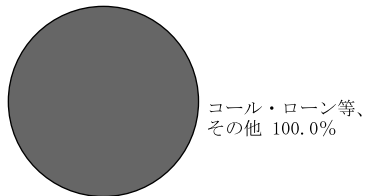
当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド等

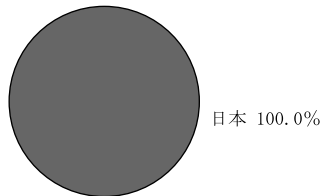
信託終了日における有価証券等の組入れはありません。

種別構成等

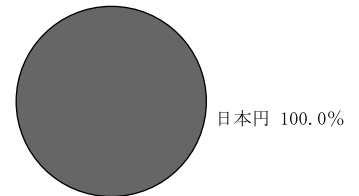
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- ・配分は当ファンドの純資産総額に対する比率です。
- ・国別配分は国・地域別による配分です。

純資産等

項目	償還日 2015年10月30日
純資産総額	701,384円
受益権総口数	1,000,000口
1万口当たり基準価額	7,013円84銭

(注) 期中における追加設定元本額は0円、一部解約元本額は0円です。

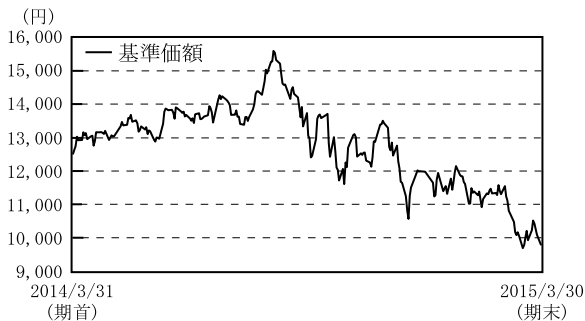
組入上位ファンドの概要

<参考情報>

◆HSBC ブラジル マザーファンド（計算期間 2014年4月1日～2015年3月30日）

※償還時における組入ファンドはありません。以下のデータは、主要投資対象の「HSBC ブラジル マザーファンド」の直近決算日現在のものです。

基準価額の推移



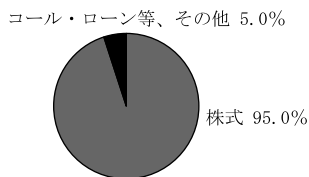
1万口当たりの費用明細

項目	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	8円 (8)	0.063% (0.063)
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	12 (12) (0)	0.095 (0.095) (0.000)
合計	20	0.158

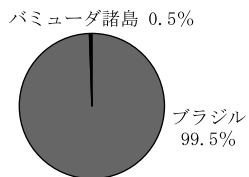
- ・1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものです。
- ・期中のマザーファンドの平均基準価額は12,942円です。
- ・各項目ごとに円未満は四捨五入しております。なお、費用項目の概要については、2ページをご参照ください。
- ・「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
- ・その他費用の（保管費用）には非居住者のブラジル国内株式投資に係る金融取引税（1万口当たり0円）が含まれます。

種別構成等

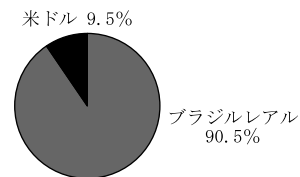
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- ・組入比率は、マザーファンドの直近決算日現在のものです。
- ・【資産別配分】はマザーファンドの投資信託財産総額に対する比率、【国別配分】【通貨別配分】はマザーファンドのポートフォリオ部分に対する比率です。表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・国別配分は国・地域別による配分です。

組入上位銘柄

（組入銘柄数：44）

	銘柄名	業種	比率
1	イタウ・ユニバンコ・ホールディング	銀行	8.2%
2	CCR	運輸	8.0%
3	イタウザ・インベスティメントス・イタウ	各種金融	6.0%
4	アンバブ	食品・飲料・タバコ	5.7%
5	ブラデスコ銀行	銀行	5.2%
6	シエロ	各種金融	5.1%
7	ペトロプラス	エネルギー	4.3%
8	BRF	食品・飲料・タバコ	4.2%
9	TOTVS	ソフトウェア・サービス	4.0%
10	サンマルチーニョ	食品・飲料・タバコ	3.4%

- ・上記組入上位10銘柄はマザーファンドの直近決算日現在のものです。
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。また、各銘柄のADR、GDR、オプション証券等を含みます。
- ・銘柄名は、報道等の表記を参考にHSBC投信が翻訳しており、発行体の公式名称やその和文訳と異なる場合があります。
- ・全銘柄に関する情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されております。

◆指数に関して◆

<当ファンドのベンチマークについて>

ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標）は、『MSCI ブラジル10/40指数（円ベース）』です。MSCI ブラジル10/40指数とは、ブラジルの証券取引所に上場する企業を対象とした一般的な指数であるMSCI ブラジル指数に対し、投資信託に合わせた調整（一銘柄の構成比率の上限を10%にする、かつ5%を超える銘柄グループの合計の上限を40%にする等）を加えた浮動株調整後時価総額加重平均を算出した指数をいいます。なお、当該指数は、MSCI 社（MSCI Inc.）が開発、計算する指数で、同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利はMSCI 社に帰属します。また、MSCI 社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。当ファンドのベンチマークとしては、同指数を委託会社が円換算した数値を使用しています。

<「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について>

▶東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利および東証株価指数（TOPIX）の商標または標章に関するすべての権利は、株式会社東京証券取引所が有しています。なお、当ファンドは、株式会社東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、株式会社東京証券取引所は、当ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

▶MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）

▶MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCIコクサイ・インデックス、MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が公表しているインデックスで、その著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

▶NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

▶シティ世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）

シティ世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

▶JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、J.P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。